

令和5年度保護者等のアンケート結果及び自由記述への回答

【1 安全安心な学校を作るため、危機管理意識を高く持った行動をする】

今年度も良い評価をいただきました。

コロナは5類になりましたが、コロナに限らず日頃から児童生徒の健康観察を行い、健康管理や校内環境の整備に努めて参ります。

災害はいつ起こるか予想ができませんので、引き続き、児童生徒の安全確保のために訓練等を行っていきたいと考えております。また、保護者等の皆様にも引き渡し訓練等において、御協力のほどよろしくお願いいたします。

その他にも、エピペンの使用方法やおう吐をした際の初期対応についてなど、学校では様々なことを想定して実践的な研修を行っています。学校が避難所になった場合の研修等も行いました。

学校では、起こり得る様々な危機に対応するための各種マニュアルや、スクールバス運行に関するマニュアルを作成していますが、今後もマニュアルの見直しや訓練等を通して適切に対応できるよう備えて参ります。

【2 様々な方面における開かれた学校づくりを行う】

特に情報提供の仕方(方法)につきましては、約7割の方からA評価をいただきました。しかし、一部C評価やD評価があることから改善できることは行い、引き続き、保護者等の皆様には必要な情報を分かりやすく伝える努力をしていきたいと考えます。

ひかり祭は、コロナ前のように完全にオープンという訳にはいかず、配信機能を活用しての開催となり、保護者等の皆様にも御不便をおかけしてしまったかと思えます。しかし、コロナ禍では参加できなかった卒業生にも参加いただいたり、家族の来校人数制限を緩和したりしたことで、一歩前進できたかと思えます。来年度については、そのときの状況等をよくみて公開の範囲等を決めていきたいと考えます。

交流学习や校外学習等、校外における学習につきましては、感染症に注意しながら実施しました。また、学校支援ボランティアの方々に来校していただき、徒歩学習や読み聞かせ、また作業学習等の授業に御協力いただきました。コロナ禍で学んだことを生かしながら、子どもたちが地域の方々との関わりを通じた学習活動を継続していけるよう、今後も工夫しながら進めて参ります。

【3 学習指導要領を踏まえ、カリキュラムの改善と充実を図る】

小学部では学習の土台となる基礎基本づくり、中学部では生活に必要な衣食住に関する力の育成、高等部では卒業後の社会生活を見据えた課題の改善、向上する力の育成を目指し、校内で公開授業や研修会、御家庭や地域資源を生かした学習活動を行い、よりよい授業づくりについて検討し、実践して参りました。

繰り返し行うことで、身に付くことも多くありますが、引き続き児童生徒に合わせた学習内容になるように懇談等の折に保護者等の方々とも話し合いを行いたいと思えます。

また、ICT機器を活用した授業も増えております。国語や算数・数学といった教科での活用はもちろん、体育や音楽、調べ学習、朝の会や帰りの会でも活用し効果を上げています。また、夏季休業中には家庭学習の一環としてタブレット端末の持ち帰りも実施しました。事後に行ったアンケートでもおおむね好評評価でした。タブレット端末の持ち帰りは初めての試みということもあり、改善する点もありましたので、今後検討し、より良く学習に活用できるように、また、主体的に取り組めるように適切に使用して参ります。学校においても、様々な学習の場を保護者の方や地域の方に参観していただけるよう、設定したいと考えております。

【その他】

保護者等や外部からの来校者を、ほぼコロナ禍前と同様に受け入れながら教育活動を行うことができました。今後も学校支援ボランティアや地域の方々と積極的に関わる場を設け、学習活動の幅を広げていきます。